

武佐宿とむしやりんどう

中山道六十六番目の宿場町「武佐宿」は、中山道と伊勢につながる八風街道との交わる場所に位置します。江戸時代より前は、長光寺とその周辺が宿場として機能し



武佐宿本陣跡

ていました。例えば、室町時代後期の天文2年(一五三三年)、尾張国に向かった公家の山科言継は、7月2日に京を出発し、坂本(大津市)で一泊、翌日船で志那(草津市)へ渡り、守山から馬に乗って、「むさの長光寺に一宿」と記されています。

この頃の武佐宿は単なる宿場ではなく、瓶割山を背後に構えた軍事的な拠点としても発展したと考えられています。南北朝時代の文和3年(一二三四年)12月、南朝軍が京都へ迫った際、足利尊氏ら北朝軍は、後光厳天皇とともに「江州武佐寺(現在の長光寺)」に避難しています。慶長7年(一六〇二年)に



は、徳川家康の中山道整備に伴い、現在の武佐町と長光寺町にまたがる位置に移転したと伝わっています。天保14年(一八四三年)の記録によると、武佐宿の人口は五三七人、家数は一八三軒、本陣・脇本陣が各一軒、旅籠屋は二十三軒あったようです。

さて、平成27年1月に市の花となった「むしやりんどう(武佐竜胆)」は、一説によるとその種が武佐町で発見されたことによりその名がつけられたとされています。青紫色に咲くその花は、毎年6月初旬に武佐学区内数カ所で開催され、鑑賞を楽しむことができます。

「武佐宿を守っていきたい」

(成田さんにインタビュー)

中山道の宿場としての武佐宿を守っていくため、もっとたくさんの方に魅力を知ってもらいたいという想いから、むしやりんどう保存会ができました。

以前に、長野県松本市に出かけた際、とある休憩所に立ち寄ったときのおもてなしに感銘を受け、その時に「むしやりんどう」で武佐宿に来てもらえるおもてなしができればと思います。「むしやりんどう」は、武佐で発見されたといわれており、おもてなしに最適と思いました。

この度、古民家を活用して、中山道にまつわる資料を展示したり、人が気軽に集える拠点をオープンできる見通しがつきました。もっと地元から武佐宿の魅力を発信していきたいと思えます。



むしやりんどう保存会
代表 成田傳良さん

人口と世帯 令和元年5月1日現在
()は前月比

総数 82,090人(+27)
男 40,381人(+19)
女 41,709人(+8)
世帯 33,765世帯(+84)

※外国籍住民(37カ国・地域/1,426人)を含みます。

テレビ画面で広報紙
びわ湖放送にチャンネルを合わせ
リモコンのdボタンを押し!

マイ広報紙

マチイロ

YouTube

Facebook



広報おうみはちまんは、各自治会を通じてお届けします。また、各学区コミュニティセンターや図書館などの公共施設、郵便局、金融機関、セブン-イレブン・ファミリーマート各店舗のほか、市ホームページやマチイロ、マイ広報紙などでもご覧いただけます。